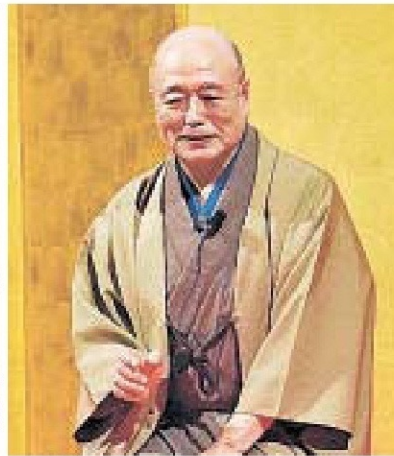


あいさつネタ、笑い誘う 立川談四楼さん

創作活動の原動力語る ジェームス三木さん

JTフォーラム、300人聴講

JTフォーラム「ひとときを、想う。」協賛。立川さんは「挨拶は楽しい」と題して冠婚葬祭の場でのあいさつをネタに、「結婚式は仲人や新郎新婦を過剰に褒め、通夜や法要では語尾が何を言っているのか分からないくらいがちやうど良い」などと面白おかしく語り、会場の笑いを誘った。



落語「文七元結」を披露する立川談四楼さん

落語「文七元結」では打って変わって、ばかり好きの男と自殺しようとする青年との人情話を、巧みな話芸で表現。美濃国出身の元結職人桜井文七が登場人物のモデルになっていることも明かした。

三木さんは旧満州で過ごした幼少期を振り返り、「日本は神国と教えられたが、戦争に負けた。この経験から親や学校の先生が信用できなくなった。今では」と呼び掛けた。

「(国を超えた)文化交流が進む一方で、マスコミに影響されて自分なりの考えを持ってない人が増えている」とも警鐘を鳴らし、「戦争もけんかも双方に正義はある。それぞれの正義が違うことを認めながら、一人一人が意見を持つことが大切では」と呼び掛けた。



創作活動の原動力について語るジェームス三木さん＝いずれも岐阜市長良福光、岐阜都ホテル